最適な資本構成を目指し、新たな成長に繋げます。

住江織物株式会社 代表取締役常務 管理本部長



私は管理本部長として、成長戦略実現に必要となる最適な資本構成を維持するための財務戦略の立案・執行を担っています。ほかにも、情報システムを活用した業務の見直しや効率化、人材育成・活用のための教育や新制度設計など、各事業部門の競争力向上を後押ししています。

中長期経営目標の進捗

外部環境の影響で、2023年5月期は財務計画未達

中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022~2024~2027」(以下SGW)の2年目であった2023年5月期は、売上高は計画を上回ったものの、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益・ROE・DEレシオが計画未達となりました。2024年5月期は、目標の一つである「売上拡大、成長への基盤づくり」へ向けた課題対応のスピードを上げ、計画達成を目指します。

3ヵ年連結収支計画の2年目の結果

	2022		2023		2024
	計画※	実績	計画※	実績	計画※
売上高(百万円)	86,480	81,713	90,360	94,828	93,490
営業利益(百万円)	1,160	110	2,520	1,294	3,300
営業利益率(%)	1.3	0.1	2.8	1.4	3.5
経常利益(百万円)	1,350	950	2,730	1,575	3,530
当期純利益(百万円)	620	281	1,280	320	1,960
ROE(%)	2.2	1.0	4.5	1.1	6.6
DE レシオ (倍)	0.58	0.67	0.64	0.73	0.56

[※] 計画数値は2021年7月13日開示時点。

上場維持基準の達成に向けた取り組み

未達基準の達成に向け、引き続き企業価値向上を推進

東京証券取引所の市場区分の見直しに際し、当社はプライム市場を選択しました。移行基準日の2021年6月30日時点で未達だった上場維持基準「1日平均売買代金」は、IR活動や株主還元策の強化により、算定基準日の2022

年12月31日時点で0.47億円と基準を充たしました。一方、同じく未達だった「流通株式時価総額」は、2023年5月31日時点で80.7億円と依然未達です。引き続き、既存事業の強化や設備投資、M&Aなどによる企業価値の向上、積極的なIR活動、コーポレートガバナンスの充実などに取り組み、2024年5月末までの達成を目指します。

上場維持基準への適合状況の推移および計画期間

		流通 株式数	流通株式 時価総額	流通株式 比率	1日平均 売買代金	
プライム市場上場 維持基準		20,000 単位	100億円	35%	0.20億円	
当社の 適合状況 および 推移	移行 基準日	27,068 単位	54.4億円	35.2%	0.07億円	
	算定 基準日	37,631 単位	80.7億円	48.9%	0.47億円®	
適合状況および 当初の計画に 記載した計画期間		適合	2024年5月31日	適合	適合	

[※] 東京証券取引所が2022年1月から12月までの上場維持基準 (売買代金基準)への適合状況を確認した結果の通知をもとに記載

キャッシュ・フローマネジメントと投資戦略

営業キャッシュ・フロー増加と固定資産の流動化による キャッシュ・フローの創出

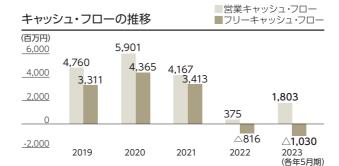
事業強化や領域拡大に向けた投資を積極的に行うため、年30億円以上のフリーキャッシュ・フロー確保を目標にしています。特に営業キャッシュ・フローの増加に注力し、SGWで営業利益率5%以上という目標を掲げているほか、売上債権や棚卸資産などの流動資産水準の適正化と、有価証券や土地など固定資産の流動化を図ります。

2023年5月期は、自動車・車両内装事業による増収などから営業キャッシュ・フローは増加しました。2024年5月期以降、業績は回復基調ながら依然高水準にある棚卸資産を、コロナ禍以前のより適正な水準に戻し、営業キャッシュ・フローの確保を図ります。

また、米国の金利上昇を受け、ドル建ての借入比率を大幅

に低下させました。2024年5月期以降、利息支払いの抑制による営業キャッシュ・フロー創出が期待できます。今後も金利や通貨選択を考慮し、グローバルでのキャッシュ・フローマネジメントに努め、最適なファイナンス政策を進めます。

2024年5月期には、東日本の物流拠点を再編します。 物流網のさらなる効率化や移転前拠点の土地売却により、 キャッシュ・フローの創出を目指します。



最適な資本構成へ向けた有利子負債の圧縮による 財務体質の改善

財務体質改善に向けては、DEレシオを重視しています。 SGWにも改善計画を組み込み、0.5倍程度を目指しています。2023年5月期は、営業キャッシュ・フローの縮小や、前期からのM&Aや大型投資による有利子負債の増加から、0.73倍となりました。キャッシュ・フロー創出の諸施策と併せて有利子負債を圧縮し、最適な資本構成を目指します。

資本収益性を測る指標としては、ROEを重視しています。2023年5月期は利益回復途上のため1.1%となりましたが、2024年5月期にはSGWで掲げる6.6%を目指します。また2024年5月期には資本コストを的確に把握し、収益性指標や市場評価に関する分析・評価を実施し、SGW2027において、多様化する企業価値の要素の改善に向けた方針・目標を設定し、具体的な取り組みを実行します。

■リース債務含む ●DFI/シオ 有利子負債額とDEレシオ推移 ■リース債務除く (億円) 0.5倍程度を 1.0 250 200 150 100 50 231₂₁₂ 221201 208₁₈₉ 203₁₈₆ 目指す 0.75 0.50 0.25 2023 2024 2020 2021 2022 (各年5月期)

次世代の成長に向けたM&A・投資

M&Aでは、車両内装事業で関織物(株)をグループ化することで(P30)、トップシェアを誇る同事業のBCPを推進し、需要回復のなかで一層の受注獲得・事業拡大を目指します。

設備投資については、北中米の合成皮革市場拡大に対応するため、メキシコ子会社の合成皮革製造工場新設に着手。 投資額は総額約30億円で、2023年12月完成予定です。 また、基幹システム再構築に関しては、債権管理・債務管理・一般会計・生産管理システムを住江織物(株)に導入。保守運営コストの削減、経営の意思決定の迅速化、一元管理による在庫管理精度の向上、業務効率化を実現します。2024年5月期には、子会社にもこれらのシステムを展開予定です。

これらの投資は、裁量権を各事業部門に委譲することで 迅速な意思決定を実現する一方で、取締役会で事業ごとの ハードル・レートを設定し、回収期間法を用いて管理してい ます。また原資は、内部留保や営業キャッシュ・フローを基 本とし、必要に応じて資金調達をして充当します。

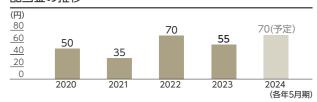
株主還元

安定的な配当と株主優待制度の導入

株主還元は、株主のみなさまへの安定的な配当を前提 とし、業績の動向と事業拡大への投資を勘案しながら、適 正な成果の配分を行います。また、2022年5月期より株 主優待制度を設け、株主還元を強化しています。

2023年5月期は業績予想の修正に伴い、1株当たりの期末配当を35円から20円に修正し、年間配当55円としました。2024年5月期は年間70円とさせていただく予定です。

配当金の推移



投資家とのコミュニケーション強化

開示資料の充実と積極的なIR活動

国内外での認知度・信頼性を高めるべく、IR活動を強化しています。統合報告書など各種情報開示資料の充実および英語対応、スポンサードレポートの継続的な発行、決算説明会の内容書き起こしのweb掲載など、個人投資家への情報提供も強化しています。機関投資家との個別ミーティングは、最近では四半期ごとの回数も増え、引き続き株主・投資家との建設的な対話に積極的に取り組んでいきます。

今後も最適な資本構成を目指した活動を推進し、当社グループの新たな成長と企業価値の向上に繋げていきます。

35 SUMINOE GROUP 統合報告書 2023 36